令和４年９月国見町教育委員会定例会 会議録

１．招集日時　　令和４年９月２６日（月）　午後５時３０分
２．招集場所　　観月台文化センター　第１会議室
３．出席委員　　１番委員　高橋　幸子（教育長職務代理者）
　　２番委員　志村　裕美
　　３番委員　中村　裕美
　　４番委員　引地　　亨
　　５番委員　菊地　弘美（教育長）
４．説明のため出席
　　教育次長　　東海林八重子
　　学校教育課長　　大勝　晴美
　　幼児教育課長　　佐藤　温史
　　生涯学習課長　　小野　笑子
　　指導主事　　高橋　正浩
５．書　　記　　主任主査兼学校教育係長　　五十嵐佐和
６．傍聴者　　なし
７．開　　会　　午後５時３０分
８．教育長あいさつ
９．会議の成立　　教育長が、教育委員半数以上の出席であり、会議が成立していることを宣言した。
10．会議録署名人　会議録の署名人について１番委員　高橋幸子委員、２番委員　志村裕美委員を教育長が指名した。
11．会期の決定　　教育長が会期を諮り、本日１日とすることを決定した。
12．会議録の承認　事務局より８月定例会会議録の概要について説明し、異議なく承認された。
13．教育長報告
　(1)令和４年９月定例議会について
　・教育委員会委員の任命について
　　志村委員の１０月１日からの再任命について報告した。
　・一般質問について
　（教育関係施設のこれからについて）
　　体育館５施設について、時期は未定だが上野台体育館に集約する予定である。ただし、観月台体育館については現在利用者から意見集約中であり、今後について検討中である。くにみ幼稚園、藤田保育所、子どもクラブについてはくにみ学園構想の中で検討する。ももたん広場は体育館、遊具の経年劣化により、廃止する予定である。グリーンアリーナ、観月台文化センターについては長寿命化を図る。旧大木戸小学校の文化財センターについては統廃合の方針であると答弁した旨を報告した。

（国葬に対する考えについて）

町長からは国葬の法的な根拠が薄いこと、閣議決定だけで行われるのは国会軽視であること、自治体への黙とうや半旗の要請がないため町としては検討する余地はないと答弁した。

教育長からは暴力により倒れたことに哀悼の意を表するが、憲法に思想良心の自由がうたわれているため、それを尊重すること、教育基本法で政治的中立をうたわれていることから政治的中立を犯す行為は慎重であるべきと答弁した旨を説明した。

・その他

教育支援センターの条例が可決されたことを報告した。

⑵家庭教育講演会 2022 について

別紙資料のとおり報告した。

⑶新型コロナウイルス感染の状況について

資料に基づき説明した。

⑷教育長出席会議等について

教育長の出席会議・行事等について、別紙資料のとおり報告した。

１４．協議・報告

【報告事項】

⑴令和４年度国見町一般会計(教育費)９月補正予算について

別紙資料に基づき、前回より変更のあった部分について生涯学習課長より説明した。

⑵国見町くにみ学園基本構想策定委員会の人事について

⑶第１回くにみ学園基本構想策定委員会について

⑵ ⑶について別紙資料に基づき、学校教育課長より説明した。

(４)各課から

１学校教育課報告

① 令和４年度 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査について

各調査の結果について別紙のとおり説明した。

② 新型コロナ感染症による中学校の臨時休業について

中学校の感染状況と対応について、別紙のとおり報告した。

２幼児教育課報告

① 幼稚園における「自然保育を用いた子どものストレス軽減プロジェクト」について

プロジェクトの概要、実施時期等について、別紙のとおり報告した。

② 道の駅 こども木育広場「つながる～む」について

期日限定で開設した「つながる～む」について、別紙のとおり報告した。

３生涯学習課報告

① 公営塾ハルについて

フミダス！ツアー最終報告会について、別紙のとおり報告した。

② 地域学校協働本部事業について

少年仲間づくり教室「おんかつ」、第２回家庭教育講演会 2022、国見っ子わんぱく広場

「体を使ったゲーム」について、別紙のとおり報告した。

③ 図書事業について

移動図書館について、別紙のとおり報告した。

④ 青少年健全育成事業について

家庭の日作品コンクール審査会について、別紙のとおり報告した。

⑤ 芸術文化事業について

BLACK BOTTOM BRASS BAND コンサートについて、別紙のとおり報告した。

⑥ 公民館事業について

くにみ観月台カレッジ研修旅行について、別紙のとおり報告した。

⑦ 今後の予定について

１０月までの開催予定の事業日程について、別紙のとおり報告した。

⑧ 「質問のできる学習室 in 柏葉体育館」について、別紙のとおり報告した。

⑨ 成人式のあり方についてのアンケート結果について、別紙のとおり報告した。

【協議事項】

『くにみ学園基本構想（ワークショップ結果）について』

事務局がこれまで行われたワークショップの結果を紹介し、教育長より委員の方からいただいた意見を基本構想の中で膨らませていきたいとの話があった。

各委員からは次のような意見が出された。

中村委員：先生の働き方改革がとても大事で、大人に余裕がないと子供にも余裕が持てないと思う。ICT 授業の準備が大変なのではないか。タブレットを使った授業は回数などの決まりがあるのか。

高橋指導主事：明確な目標やノルマはない。現在は中学校では積極的に使っている教科もある。小学校も子供の発達段階に合わせて使っている。明日のＩＣＴ委員会では機械が壊れることを恐れずに、積極的に使っていくことの共通理解を図る予定。

中村委員：先生方の何が大変なのかを拾って、楽にする動きはあるのか。

教育長：国見町は福島県統一の校務支援システムを取り入れているので、本来は事務的なところは軽減できるはずだが、実際には色々あるため、実態について指導主事より説明いただきたい。

高橋指導主事：校務支援システムで名簿や指導要録を管理しているが、通知表は従来通りエクセルでマクロを組んだもので作成している。働き方改革は、行事の精選や会議の時間設定等進めてきた。しかし実際は超勤が８０時間を超える先生もいる。一番の要因は部活動。部活動の地域移行は大事な動きとなる。

教育長：校務支援システムがきちんと学校の実態に合っているかについて、各学校ごとに様式等も異なるため、まだメリットは享受できていない感触を持っている。しかし福島県が全県で入れているのは素晴らしい取り組みである。国でもシステムを導入し、デジタルを利用して先生方の負担を軽減しようという動きになっている。タブレットが入ったことにより先生方の作業時間が増えたこともあると思うが、

デジタルの良さは、次年度ゼロからではなく今年のものを使って工夫できる部分があるので一年たったときにクリアされる部分があるのではないかと思う。
先ほど高橋委員よりワークショップの結果について、いいことばかり書いてあるとのお話が合ったが…

高橋委員：素晴らしいことばかり書いてあるが、本当にこれで始まってどこに行くのかという感じがする。漠然とやっていても結局は事務局で出したものになるのではないか。本当にみなさんの意見を行くのであれば、もっと現実に則したものであるべき。このような理想論はどこでも出てくる。

引地委員：実際にどのような形で考えているのか？ベースの学校があってそれを基に国見らしさを出していくのか、全く違う考え方でくにみ学園を町の核として考えて作っていくのか？策定委員会のメンバーを見ても大学教授が多く、恐らく大学の先生などは文科省の考え方に沿った意見を出してくると思うので、結局最後は普通の学校が出来上がるのではないか。

高橋委員：コミュニティ・スクールが動き出した時に似ている。あの時もコミュニティ・スクールになればとてもよくなるような話があり、視察や研究会などたくさん行ったが、それが今どのように結びついているのか、反省も全くなされていない。

中村委員：どこのワークショップをやっても似たような意見が出てくる。みんな同じ考えであり、それをどうするのか。個人的には、地域活性化起業人の方がどのような考えをもっているのか興味がある。

高橋委員：地域密着ではない委員の方が、今の時代の流れと、これからの将来のことを言っうことは、どこでもできることであり、それよりも「うちの孫や子どもをどうにかしたいんだ。」という意見を中心に進めてほしい。立派な話よりも、一生懸命桃や米を作っている人、子供や孫について一生懸命考えている人、地域に根差して活動している人の望むことがを聞いて反映してほしい。

教育長：ワークショップの結果はCS委員会や事務局で出た意見だが、「こんな社会が来ればこんな子どもたちに育てたい」という芯があり、そのために理想とする学校の施設はどんなものが必要だろうかというところをやっている。ただ、大切なのは施設だけではないので、これから具体的に学年の切り方やカリキュラムをどのように組むかのベースを来年あたりまでに決める見込み。ハードの部分とソフトの部分が同時並行的に進むイメージ。ハードを作るために必要な、理想とする施設はどんなものという部分を今やっている。

高橋委員：月舘学園はどういう方が中心になって、どのように進めたのか？

教育長：経過については把握していない。

高橋指導主事：月舘学園は義務学校ではなく、一貫校であり、小学校、中学校と６年３年で分かれている。義務教育学校になれば１年生から９年生までどこで区切ってもよい。６年生の後半で７年生の学習をしてもよいし、中学校の先生が小学校を教えてもよいという利点がある。これからカリキュラムや制服等具体的な内容を検討するときには、地域やPTAを含めて話し合いを行っていくことになる。今日行われ

たＣＳ委員会では、地域と学校をどう結び付けるか、学校から地域にどう出ていけるか、例えば義経まつりに小学生、中学生が企画段階から関わらせてもらえば国見町を知ることができるのではないかなど、地域の方の想いを聞いたところ。これからも子どもや保護者・町内企業を対象としたワークショップ等色々考えられるのではないか。

教育長：学校は公教育の場なので、これらの誰もが同意できる意見は大事な土台となる。国見らしい学びについてこれからどんどん出していかなければならないが、住民のワークショップから意見をいただくのはなかなか難しいと思う。それこそ起業人の民間の感覚が大事になってくると考えている。例えば学校にイチゴ栽培ハウスを作って、子供達と一緒にスマート農業について学習したり、校舎で使うエネルギーを限りなくゼロに近づける工夫を学ぶなどの様々な提案をいただき、実現の可能性について一緒に検討をしている。他にも事業者が学校に入ることで、民間の方との交流が自然に行われ先生方も変わっていく可能性があるとの話もある。

現段階では、様々な可能性について検討しそれを実現しようとするときに、施設としてどれだけの広さが必要なのか検討をしている。それが決まれば、具体的な建設候補地についても、また皆さんと議論できると考えている。国見では農業ビジネス訓練所を立ち上げている経過もあるので、そこを大事にしていきたい思いもある。

今日の CS 委員会では学力が一番ではないし、良い会社に入っても安泰の時代でもない。これからは子どもたちがいかに経験値をあげて新しい課題に対して自ら答えを出していくかを追求する力が必要になるとの意見もあがった。

高橋委員：ワークショップの結果だけをみると楽しい学校生活で、理想の子どもを育てて、決して学力アップを目指しているわけではないようだが、多くの保護者は成績を上げてほしいと思っているのではないか。そこで意見がぶつかるのではないかと思う。

引地委員：学力だけではないというのは理想だが、現実はそうではない。ある程度の学力は必要である。しかし、ただ学力を求めるのではなく、学力も付けつつ、色んなものの見方をできる子どもを育てることが必要。実際働いている現場が身近にあって、その方たちと交流することによって、将来の選択肢がはっきりと見えるような方向性に持っていければよいのではないか。しかし様々な企業を身近で感じることは難しいので、色々な職業を提示してくれる人がいて、少しでも興味を持ったものを調べることができたり、手を差し伸べてくれる大人がいる環境があればいいのかなと思う。

教育長：学校に民間の企業が事務所を持ったり、ＩＣＴ等職員が常駐していれば、子ども達には身近に見えるものになるので興味を持つことはあると思う。

今くにみ学園構想に大事なのは、住民の声を聴いてそれを生かして学校を作っていこうというところ。あとは来年度以降の学校のベースとなる部分の議論が当たり前で終わってしまっては、国見でくにみ学園をつくる意味がなくなってしまう。国見には学校が一つなのでそこを考えていかなければならない。きちんとした学

校であること、でもとんがった部分として国見らしさをいかに出していくか、そこが起業人を入れている理由でもある。民間の力を借りて新しいものを国見にどんどん作っていくことも学校を創造する際に必要なこと。現在、例としてベッドの両側で診ることができる救急車を民間の方と開発している。救急車を作らない企業が現場の声を聞いて進めることで出てくるアイディアもある。それが学校の中でも出てくるとこれまでと違ったものができる。

高橋委員：一つ気になったのは、支援学級や不登校の子が増えているが、どこに生かされているのか。だて支援学校に行くのか、くにみ学園の中でやっていくのか。そこの考えは外せないと思う。

教育長：個を大切にというキーワードは、各ＷＳで出されている。個人個人の個性を大事にしていく教育をやってほしいということを突き詰めると、支援が必要な子には支援員や環境も当然必要である。また新しい学校には今「ステップ」として行っている教育支援センターを入れたい。ただし学校の一部ではなく、分離された状態であることが大事。昇降口を別にするなど導線が別になるようにしたい。

志村委員：そこに地域の方と関われる場所があって、興味を持った活動を一緒にできたらよいと思う。

教育長：そのためにも地域学校協働本部や家庭相談員なども同じ学園の中にあるべきだと考えている。

志村委員：結果を見ていると先生方も、保・幼・小・中一貫で子どもたちの成長を見ることができることを考えてくれているということが書かれており、同じ方向を見ていることが分かってよかった。

教育長：先生方には自分が勤務したくなる学校、自分の子どもを通わせたくなる学校という視点で考えてもらったが、同じように考えてくれていることが知れてよかった。ただ大変なのは来年からのベースの部分だと思う。先生が変わっても学園の方針が変わらずにいけるところを目指さないといけない。

中村委員：町研のワークショップの中の「家庭と協力しながら一緒に子供の成長を喜び合えるよう信頼関係を築いていきたい」とあり、先生も同じ意見でほっとした。先生に余裕がないと子どもに幸福は下りていかないと思うので、子供の成長を喜び合えるというのはとても大事だと思う。

教育長：先生方も同じ保護者でもあるので、その考えを勤務に活かしてほしい。また、仕事をする場として国見で勤めたいなと思ってもらいたい。

〇その他

- １０月教育委員会は１０月１４日（金）午後５時１５分より観月台文化センター第１会議室で開催予定
- 令和４年度福島県市町村教育委員会連絡協議会県北ブロック研修会が１０月１８日（火）１３時３０分～　サンライズもとみやで開催予定

16. 閉　　会　　午後７時３０分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

令和４年９月２６日

議事録署名人

１番委員

２番委員

会議書記　　主任主査兼学校教育係長　　五十嵐　佐和